

87 ベルサイユ宮殿に隠された日本の鎧兜 (2021 年 11 月 11 日)

ベルサイユ宮殿は、世界各国から多くの観光客が足を運ぶ人気の観光地です。新型コロナウイルス発生前の 2019 年は、約 820 万人がベルサイユ宮殿を訪れました。ここを訪れる人は誰しも、荘厳な建物やまばゆいばかりの「鏡の間」に圧倒されるのではないのでしょうか。そのような豪華絢爛な鏡の間には、密かに日本のものが隠されていることをご存じでしょうか。

ベルサイユは、かつては王たちの狩猟の場でした。狩猟に訪れたルイ 13 世はこの地を気に入り、1623 年に最初の城を建てました。そして、敷地を拡大し、建物を増改築して現在のような宮殿にしたのが、ルイ 14 世です。ベルサイユ宮殿は、フランス絶対王政主義を象徴する建築となりました。中でも、贅を尽くした鏡の間は、王の権力を示す場所だったと言えるでしょう。天井を見上げると、シャルル・ル=ブランによって描かれたルイ 14 世の栄光を表した 30 枚の天井画があります。実はその中の一枚に、日本の甲冑が描かれています。さらに興味深いことに、この甲冑の実物は、パリにある軍事博物館が所蔵しています。

(<https://www.youtube.com/watch?v=hZ38eGsNero> 軍事博物館による甲冑の映像、7分40秒から9分45秒、仏語のみ)



鏡の間の天井画が描かれたのは、1681年から1684年の間です。この当時は、日本は鎖国をしていて、オランダ以外のヨーロッパの国とは直接的な交易はありませんでした。甲冑は17世紀初めに、将軍徳川家から贈呈品としてヨーロッパへ送られたものではないかと推測されていますが、実際にどのようなルートでこの甲冑が日本からフランスへ伝えられたのか、なぜ鏡の間の天井画に日本の甲冑が描かれたのか、その理由は専門家にも分からないそうです。甲冑が描かれた天井画は、2004年から2007年にかけて行われた修復の際に発見されたものです。研究が進んで、謎が解明されることが期待されます。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

鏡の間というと鏡とシャンデリアに注目してしまいがちですが、ベルサイユ宮殿に行かれる機会があれば、鏡の間で天井を見上げて、日本の甲冑を探してみてください。

